

DH ・ 技術要素 ・ メタデータ

Dublin Core入門

メタデータの共通語彙

DH入門 / 技術要素シリーズ

中村 覚

この動画について

- ✓ 内容は **DCMI の仕様で事実確認** しています（特定の教材を翻案したものではありません）。
- ✓ ナレーションは **AI音声合成** です（この回は本人クローン声ではありません）。
- ✓ 図はすべて新規に作画した、**実験的な取り組み** です。不正確な点が残る可能性があります。

資料を「説明する」ための共通語彙を、初学者向けに概念から見ていきます。

この回のゴール

Dublin Core = 資料を説明するための、最小限の共通メタデータ語彙。

- ✓ Dublin Core が「共通の説明書きの語彙」だと、自分の言葉で説明できる
- ✓ **15の基本要素**と、任意・繰り返し可という性質の見当がつく
- ✓ 単純DC と 限定DC（細分化・符号化）の違いを説明できる
- ✓ OAI-PMH・Linked Data・クロスウォークでの使われ方の見当がつく

前提知識は特にありません（Omeka・OAI-PMH・RDF の各回と補い合います）。

今日の流れ

- ① なぜ「共通の語彙」が役立つのか
- ② 15の基本要素を見る
- ③ 単純DC と 限定DC のちがい
- ④ 相互運用の道具（プロフィール・クロスウォーク・oai_dc・RDF）
- ⑤ 落とし穴と使いどころ

なぜ「共通の語彙」が要る？

資料の「説明書き」を、館をまたいで通じる形にしたい。

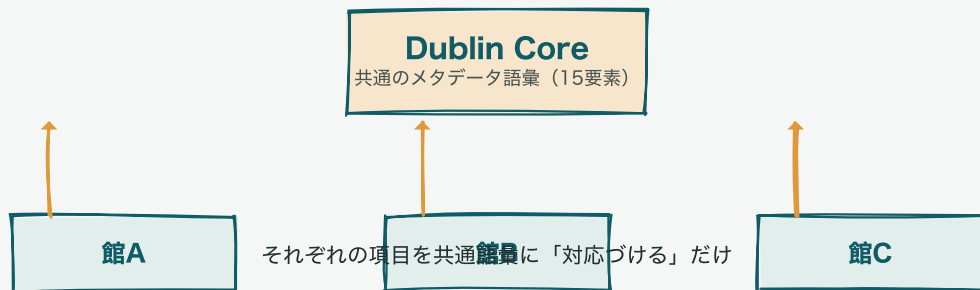
説明の「項目名」がそろわない



項目名がそろわず、交換・横断検索がしにくい

- ✓ 同じ写真でも、館ごとに項目名がばらばら（題名／Title／タイトル）。
- ✓ そろっていないと、まとめて検索したり交換したりが**難しくなります**。
- ✓ 必要なのは、最小限でよいので「共通の言い方」。

Dublin Core = 最小限の共通語彙



- ✓ 各館の項目を「共通の語彙」に**対応づける**だけで通じ合えます。
- ✓ Dublin Core は、その共通語彙の代表的な一つ (DCMI が策定)。
- ✓ 国際規格 **ISO 15836** にもなっています。

ここまでの確認

項目名がそろった「説明書き」があれば、資料を交換し、横断して探せる。
その最小限の共通語彙が **Dublin Core** です。

15の基本要素

まずは、どんな「項目」が用意されているのかを見てみましょう。

15の基本要素 (DCMES)

| | | | | |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| Title 題名 | Creator 作成者 | Subject 主題 | Description 説明 | Publisher 公開者 |
| Contributor 寄与者 | Date 日付 | Type 種類 | Format 形式 | Identifier 識別子 |
| Source 出处 | Language 言語 | Relation 関係 | Coverage 範囲 | Rights 権利 |

題名・作成者・主題・日付・種類…といった、資料を説明する基本的な観点が **15** 用意されています。

古写真を15要素で記述する



- ✓ 一枚の古写真に、Title・Creator・Date… と説明を当てはめます。
- ✓ 分かる範囲でよく、**埋まらない項目があってもかまいません。**
- ✓ こうした記述の集まりが、検索や交換の手がかりになります。

すべて任意・繰り返し可

任意

Publisher: —
(optional)

繰り返し可

Subject:歴史
Subject:写真
(repeatable)

順序自由

A → C → B 可
(no fixed order)

最小限の「ゆるい共通の約束」だけを定める

15要素は、**任意**（使わなくてよい）・**繰り返し可**・順序自由。最小限のゆるい約束だけを定めています。

ここまでの確認

15要素は「ゆるい共通項」。

分かる範囲で当てはめ、足りなければ繰り返してよい——まず**そろえる**ための道具です。

単純DC と 限定DC

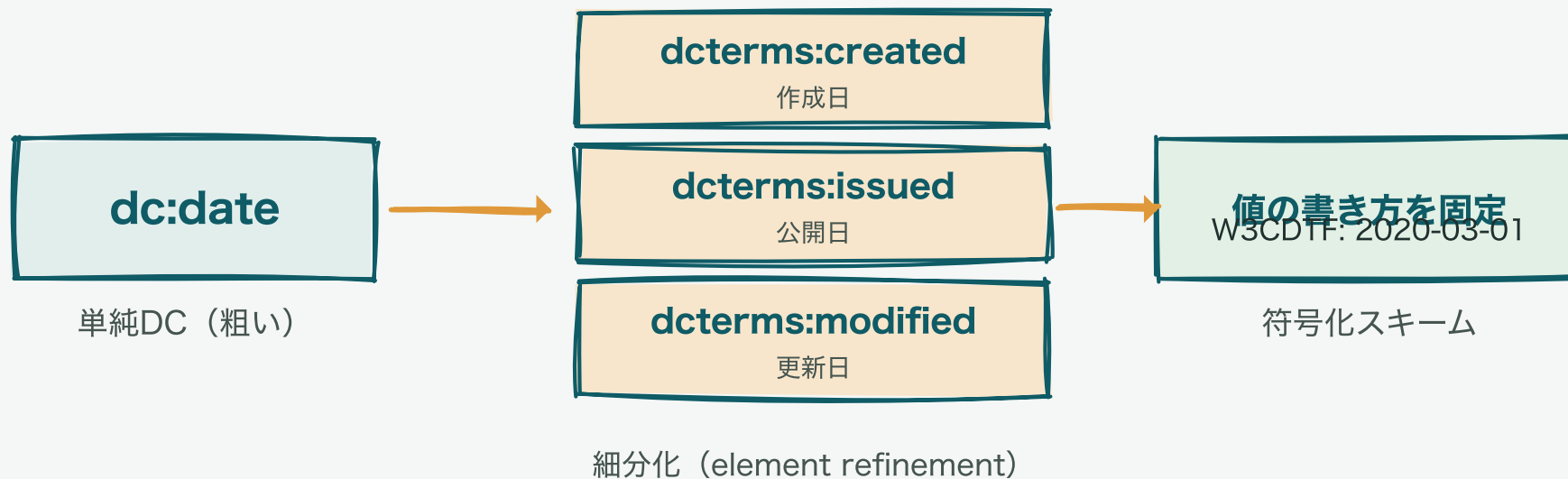
「ゆるさ」を保つか、精度を足すか。二つの使い方があります。

単純DC (unqualified)

15要素を、そのまま使う、いちばん手軽な形です。

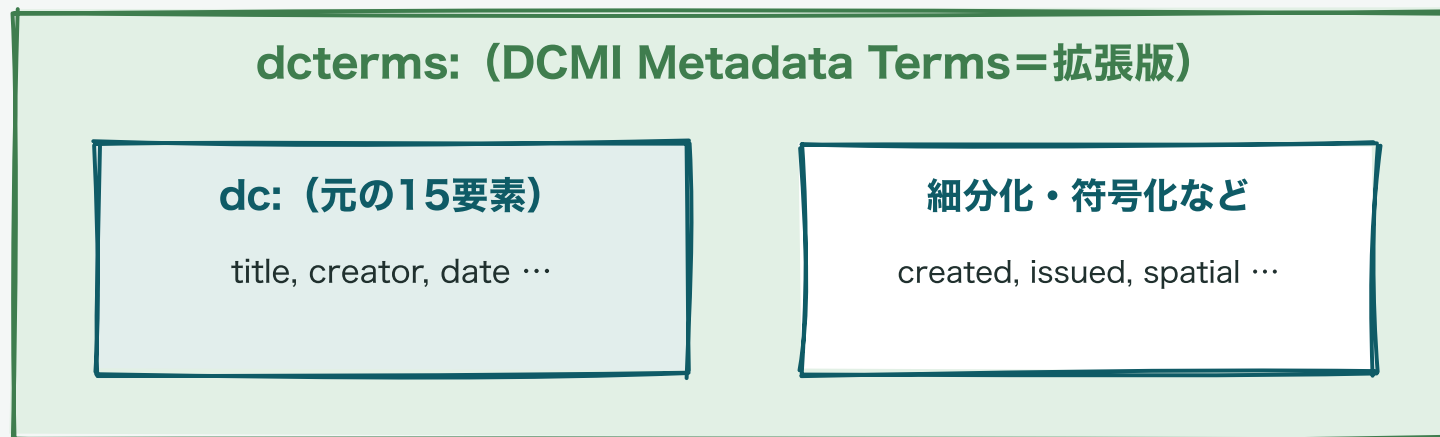
- ✓ 書きやすく、どこでも受け取りやすい（互換性が高い）。
- ✓ 一方で、表現がおおまかになりがち（例: 「日付」が作成日か公開日か曖昧）。
- ✓ まず「そろえる」ことを優先する場面に向いています。

限定DC (DCMI Metadata Terms)



要素を**細分化**（日付→作成日・公開日…）し、値の書き方を**符号化スキーム**で固定すると、精度が上がります。

二つの名前空間 dc: と dcterms:



元の15要素は dcterms: 側にも対応する版がある

dc: は元の15要素、**dcterms:** はそれを含む拡張版（細分化・符号化など）。用途に応じて使い分けます。

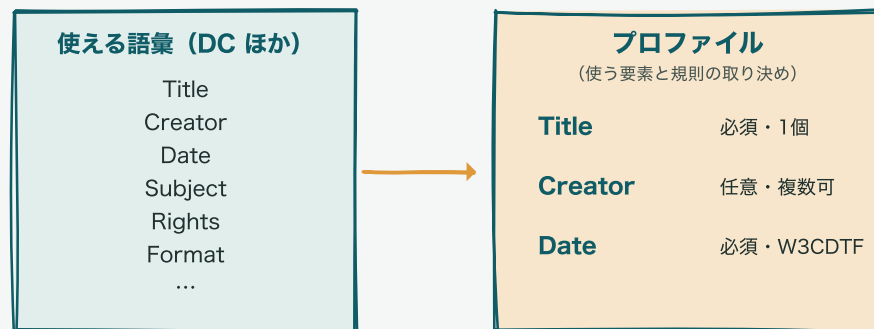
ここまでの確認

粗いまま手軽に使う「単純DC」と、精度を足す「限定DC」。
どちらも同じ語彙の上であり、必要に応じて選べます。

相互運用の道具

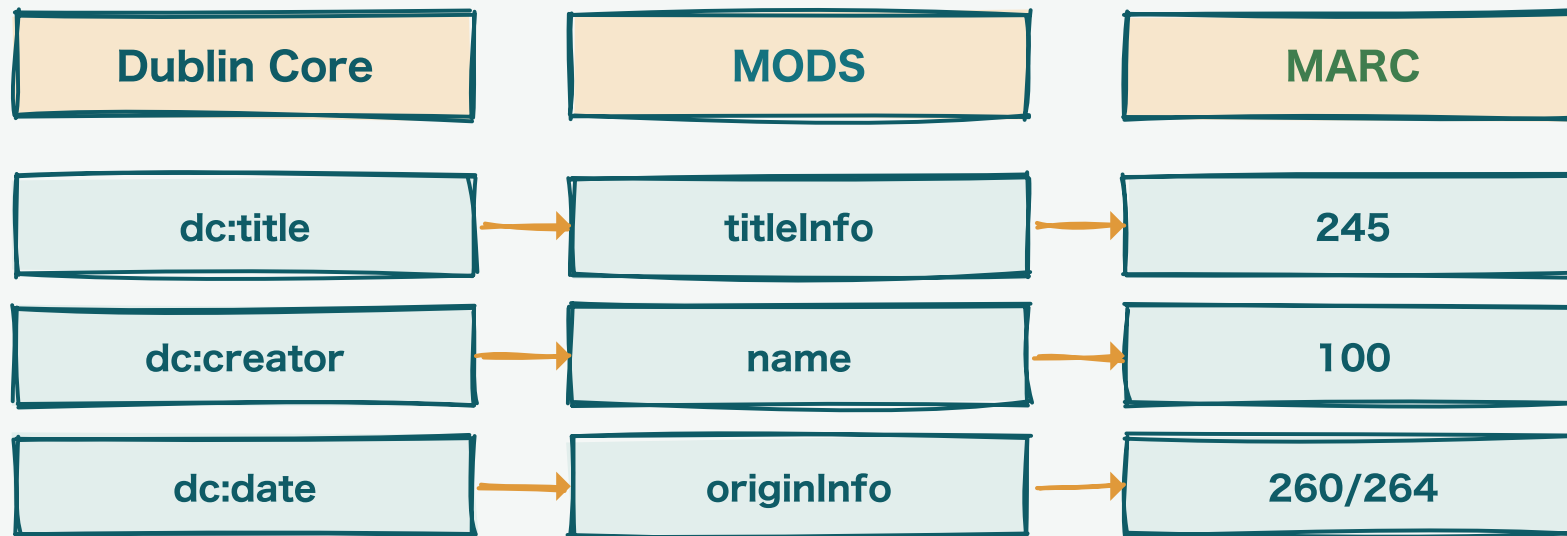
Dublin Core は、ほかの標準と「つなぐ」ところで力を発揮します。

アプリケーションプロフィール



- ✓ 使う要素を選び、必須・任意・書き方などの**規則**を決めた取り決めです。
- ✓ 「DCのうち、この館ではこう使う」という運用の約束。
- ✓ ゆるい語彙に、現場ごとの一貫性を与えます。

クロスウォーク（対応表）



同じ意味の項目を対応づける＝クロスウォーク

DC と、より詳しい標準（MODS・MARC など）の「同じ意味の項目」を対応づける表。標準の間を行き来できます。

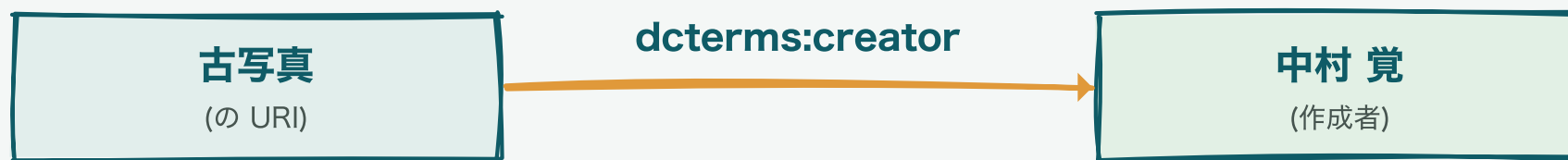
メタデータ収集の共通形式 oai_dc

```
<oai_dc:dc>
  <dc:title>町のようす</dc:title>
  <dc:creator>不明</dc:creator>
  <dc:date>1920</dc:date>
  <dc:type>Image</dc:type>
</oai_dc:dc>
```

OAI-PMH が必ず出せる共通形式 = 単純DCのXML

- ✓ メタデータを集めて回る仕組み OAI-PMH では、**単純DCのXML** (oai_dc) を必ず出せます。
- ✓ 提供側がそろえておけば、収集側はまとめて受け取れます。
- ✓ 「最小共通形式」としての Dublin Core の役どころです。

DC Terms は RDF の述語にもなる



主語 — 述語(DC) — 目的語 = Linked Data の一文

dcterms: の各語は **RDF の述語**として使えます。「主語—述語—目的語」の一文になり、Linked Data に乗ります。

ここまでの確認

プロファイル・クロスウォーク・oai_dc・RDF——

Dublin Core は、ほかの標準を**つなぐ**「橋」として働きます。

落とし穴と使いどころ

ゆるさは利点でもあり、注意点でもあります。

ゆるさゆえの落とし穴

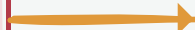
同じ「日付」でも…

dc:date = 1920

dc:date = 1920年頃

dc:date = 大正九年

形式がそろわず機械処理しにくい



補う道具

符号化スキーム (W3CDTF)

アプリケーションプロファイル

限定DC (dcterms:)

粗さ・曖昧さ・値の形式ゆれが起きがち。符号化スキームやプロファイル、限定DCで補えます。

まず「そろえる」、詳細は橋渡し

最小共通項として、まず Dublin Core で「そろえる」。

- ✓ 詳しい記述が要る資料は、専門スキーマ（MODS など）+DCで橋渡しします。
- ✓ 何を項目に選び、どう書くかには**作り手の判断**が入ります（記述は中立ではありません）。
- ✓ 「ゆるい共通語彙」と割り切って使うのが、つきあい方の基本です。

考えてみよう

あなたの手元の資料を、15の要素で書いてみると？

- ✓ どの項目は埋まり、どの項目は「不明」になりますか？
- ✓ 日付や種類は、どんな書き方なら機械にも伝わるでしょうか？

ここで少し、動画を止めて、考えてみてください。

まとめ

- ✓ Dublin Core は、資料を説明する**最小限の共通語彙**でした。
- ✓ **15の基本要素**は、任意・繰り返し可・順序自由。
- ✓ 単純DC（手軽）と限定DC（細分化・符号化で精度）を選べます。
- ✓ プロファイル・クロスワーク・oai_dc・RDF で、標準どうしを**つなぐ**。
- ✓ まずそろえ、詳細は専門スキーマと橋渡しする——それが付き合い方です。

出典・ライセンス

本動画の**スライド・図・ナレーション原稿は CC BY 4.0** で公開します（© 2026 中村 覚）。出典表示のうえ自由に再利用いただけます。

✓ 参照（事実確認・翻案せず）：Dublin Core™ Metadata Element Set v1.1 / DCMI Metadata Terms — DCMI/ISO 15836 (dublincore.org)

掛け合い版の音声・立ち絵は VOICEVOX / 坂本アヒル氏の各規約に従います。